**運動プログラムの効果（要旨）**

プルメリア訪問介護株式会社　作業療法士　齋藤倫明

【共同研究概要】

国立大学法人筑波大学体育系　助教　木越清信

研究題目：幼児期における運動プログラムの開発とその効果の検証

研究期間：2019 年 10 月 1 日～2025 年 6 月 30 日

プルメリアグループの保育園では、2019 年度より「運動プログラム」として作業療法士による遊びのプログラムを定期的に実施している。幼児期に思い切り体を動かして遊ぶことは先行研究でも大変重要と述べられているが、子ども自身が遊ぶ様子からその効果を検証したものはない。今研究では明確に効果判定を行う方法を開発し、結果を検証した。

効果判定をする能力を、小学校学習指導要領の中に示されている、思考力、判断力、表現力の中で「思考力」と定め、従来の紙面による検査やアンケート調査ではなく、子どものある遊びを観察しその様子を数値化した。小学生（１～３年生）63 名に実施、運動プログラム経験群と非経験群を比較した。結果、全体平均より運動プログラム経験群において約２０％「思考力」が高いという結果が得られ、差の有意性も認められた。

この過程で、遊びの要素分析を行っており、ただ体を思い切り動かして遊ぶのではなく、各年齢の遊び方の特徴や年齢層に必要な遊びの要素を明確化し、最適な遊び環境を作ることが可能となった。

この研究の効果検証は、すべて子ども自身が遊びとして行っている行為を分析したものである。遊びに没頭しているため、子どもの打算的な思考や行動や検査による緊張といった影響は受けておらず、素直な反応の結果であるといえる。

運動プログラムといった内容の遊びを行うことは現代の幼児にとって必要なものであり、今研究の結果は今後のこども子育て環境の整備に参考となるものであると考える。